

ボランティアセンター 東日本大震災支援ニュース

日本医療福祉生協連 近畿ブロック

No.19 2011年5月27日

発行担当 尼崎医療生協・堤

信頼を得ることから 始まる支援

依頼件数

泥かき	6件
床板はがし	3件
庭掃除	4件
引越し	0件

引き続き訪問を続けています。

私たちが訪問することで掘り起こしたいと考えている潜在的なニーズは、ボランティアに依頼することをよしとせず、何でも自分で解決してしまうという自立心が強い方、他人にお願いすることを申し訳ないと思う慎み深い方の中にあります。もちろん自立の妨げになるような過剰な援助はボランティアとはいえませんが、訪問行動を続ける中、足腰に不安を抱える高齢の方が瓦礫撤去を続けていたり、どうしていいかわからないが、他人には頼みたくないという方に度々出会います。



どこまでが必要な援助でどこからが過剰な援助になるかという線引きは非常に難しいですが、身体を壊すおそれがあると考えられる場合は医療機関として見過ごすわけにはいきません。しかし、依頼を受けているわけではないのでこちらも支援することも出来ず、だからといって放っておくことも出来ないの顔を見るためにしばしば訪問することを続けてきました。

その方から本日、瓦礫撤去の依頼がありました。お話を伺っていると私たちに信頼を寄せていただけたことがどうやらボランティアを受ける要因になったようです。支援は、結局のところ人と人との関係だと改めて考えさせられる出来事でした。

今後も行政ではどうしても把握することが難しい部分を、訪問を続けることで掘り起こし、支援の手が届くようにしていきたいと考えています。

黒田さん 富田さん お疲れ様でした



ヘルスコープおおさかの黒田さんとけいはん医療生協の組合員である富田さんが26日にお帰りになされました。黒田さんは約3週間という長期に渡り当センターで尽力され、被災者の方から厚い信頼を寄せられています。彼の築き上げた信頼関係は今後の支援において非常に重要な軸となるでしょう。

富田さんは、機械関係の職場で働かれていたという経験を存分に発揮し、中古の自転車を新品のようにしていただきました。

本当にお疲れ様でした。